

## 令和7年度 学校自己評価報告書

### I. 実施の趣旨

実施の趣旨 現在は、教育水準の維持向上と創意工夫のある教育への追求を計ることが求められる。本校が自己点検・評価に積極的に取り組むことにより、現状の分析・検討を行い教育活動、学校運営を見極め、教育活動の改善・向上を図るため、実施する。

### II. 経緯

本校は平成15年4月に看護師養成3年課程の「小諸看護専門学校」として開校し、令和6年度22期生までが入学している。

平成14年4月専修学校設置基準の一部改正により専修学校は自己点検・評価の実施と公表が努力義務化され、平成19年には義務化となった。平成22年度より本校においても一部、自己点検・評価を実施してきたが、令和6年度より学校評価委員会を立ち上げ、自己点検・評価を取りまとめ公表していく。

### III. 自己点検・自己評価の目的

小諸看護専門学校の教育理念の基に、「教育目的がどのように達成されているのか」また、「養成所としての水準をどのように維持・向上させているのか」を点検するため自己点検・自己評価を行う。

### IV. 参加者

| 区分   | 所属(役職)             | 出席者名(敬称略) |
|------|--------------------|-----------|
| 評価委員 | 小諸市健康福祉部健康づくり課 課長  | 武田 一実     |
| 〃    | 浅間南麓こもろ医療センター 看護部長 | 樋沢 たか子    |
| 〃    | 小諸看護専門学校同窓会 会長     | 青木 芳幸     |
|      | 教育学 講師             | 土井 進      |
| 〃    | 小諸看護専門学校後援会 会長     | 笹本 常夫(欠席) |
| 〃    | 小諸看護専門学校後援会 副会長    | 金子 夏江     |
| 学校関係 | 学校長                | 坂口 宇多彦    |
| 〃    | 副学校長               | 山田 さか江    |
| 〃    | 統括教務主任             | 北島 真理子    |
| 〃    | 教務主任               | 影山 光洋     |
| 〃    | 実習調整者              | 依田 まゆみ    |
| 〃    | 事務長                | 市川 和美     |

## V.開催日時

2026年3月5日(木)14:00～15:00

## VI.会議内容

- 1.開会挨拶
- 2.学校長挨拶
- 3.自己紹介
- 4.報告事項

### 1)令和6年度 自己評価報告書

20期生 卒業時の評価表

20期生 学生による卒業時の評価

学校教員自己評価

山田副学校長より説明

令和6年度 大項目の自己評価の要約と詳細

|                    |   |
|--------------------|---|
| <b>I 教育理念・教育目標</b> | <p>自己の倫理観や豊かな人間性を持ち、看護専門職として、地域に密着した保健・医療・福祉の向上を図るため、『地域に暮らす人々の健康や状況に応じて看護が実践できる人材を育成する』という理念のもと、教育目的、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを策定し、教育内容を抽出し特徴を明確にした。</p> <p>卒業時の行動特性に対する自己評価アンケートの結果では概ね達成していることが確認できた。</p>           |
| <b>II 学校運営</b>     | <p>教育理念・教育目的を踏まえ、運営方針、予算・事業計画を立案し、学校運営を行っている。近年、入学志願者の減少は顕著であり、その要因として少子化や大学志向の影響が大きい。</p> <p>個人情報保護の観点から学生成績管理、入学応募状況等は、システム以外繋がられないよう管理している。</p>  |
| <b>III 教育活動</b>    | <p>カリキュラムについては、教育課程編成の考え方と具体的な構成に基づき運営し、学生へは学生便覧と履修の手引きを配布し入学時、説明している。</p> <p>学習内容に応じた評価方法で公平に行われている。義においては、到達目標と教育内容を関係づけて講義を構成している。またルーブリック評価を活用し講義・実習における学生の主体性を引き出す工夫をしている。さらに講義ごとに確認問題を実施し、学生の理解度などを確認しながら講義をすすめている。</p> |

|        |   |
|--------|---|
|        | <p>知識の定着・向上、国家試験対策として学習アプリ導入を導入し、1年度から学習支援している。</p> <p>そのような中、学習習慣の確立しない学生やキャリア意識の低い学生の入学も受け入れざるを得ない状況があり、指導する教員により多くの負荷がかかっている。また、学生の悩み・相談に応えるためカウンセリング体制を充実させ学校生活の充実、休退学者の減少を図る。</p>  |
| IV学業成果 | <p>退学者および留年者は昨年度に比べ減少している。学業不振や健康面の問題で進路変更する学生もいるが、留年者は、自己の課題を明確にし、学習効果が上がり卒業に至っている者も多い。また、卒業生アンケート結果は、ほとんどの卒業生がこの学校で学んだ満足度を「満足している」「ある程度満足している」と答えている。</p> <p>令和5.6年度卒業生の就職率100% 県内にほとんど就職している。国家試験の合格率は、令和5年卒業生は、91.1%、令和6年度卒業生は85.7%、合格率100%を目指し個別に会った指導、日々国家試験を意識した指導を心がけていく。</p>   |
| V学生支援  | <p>あらゆる背景をもった学生が入学し、学習習慣や学習意欲、学力など様々な面で多様化している。教員は、クラス担当だけでなく、各学年縦割りのチューター制度を取り入れている。学生ひとり一人に合わせた指導や資格取得に精神面のサポートとしている。教員だけでなく学校カウンセラーを配置し、予約システムをとっている。</p> <p>国家試験合格率100%に向けた学習支援1・2年次から国家試験を見据えた学習支援対策の実施、3年次国家試験対策プログラムの作成、実施を行っている。各学年国家試験対策として学習支援をいっている。</p> <p>学生への経済的な支援については、日本学生支援機構、医師会医療機関の奨学金説明会を実施して希望者の便宜を図っている。</p> <p>本校を卒業した学生への支援について、個別の対応に限られているが卒業後、当校に来校し就職してからの現状や悩み相談、支援を送っている。また、卒業後里帰りとして卒業生たちを母校にお迎えするメッセージカードを卒後1年目に送付している。</p> |

|                     |  |
|---------------------|--|
| VI教育環境              | <p>校舎が老朽化してきているが、施設設備として、令和5年度より暖房設備の故障が目立ちその都度修理している。エアコン等の設備は計画的な修繕やメンテナンスを行い今後も継続していく。</p>  |
| VII学生募集<br>卒業・就業・進学 | <p>入学選考に関する規程を定め、入学者選抜を公正に実施している。入学試験 委員会において過去の入学状況を参照し、検討している。</p> <p>令和5年度入学試験より、推薦入試の受験科目を 国語総合1科目と面接とした。また社会人入試の受験科目も国語1科目と面接へ変更した。令和6年度入学試験結果としては、出願数は、昨年度1.9倍から1.4倍に減少した。18歳年齢人口の減少は続くため、今後も学生確保対策を 検討する必要がある。</p> <p>進路指導を実施し、概ね適切な進路選択ができています。2年次終了時に就職状況調査で就職、進学について把握し3年次の就職指導に役立てている。就職は、県内にほとんどの学生が就職している。</p> <p>卒業時に教育目標に沿ったアンケートを行い概ね到達目標は達成されている。</p> |
| VIII財務              | <p>高校生の受験者数が、年々、減少しており、入学者が定員を満たすことが難しくなっている。それに伴い受験料や入学金、入学してからの授業料等の収入が大幅に減収となっている。</p> <p>法人会計からの繰入金が増額も課題となる中、補助金については、国・県及び市町、また県医師会などの多方面からの支援を受けながら運営しているが、先々を考えると大変厳しいものと思われる。</p> <p>財政情報については、会計事務所、当医師会の理事を交えて基準に則り、適正に管理されており問題はない。</p>  |
| IX法的遵守              | <p>関係法令及び専修学校の設置基準等遵守し、適正な運営を行っている。個人情報に関し、その保護のための規定を厳守している。</p>  |
| X社会貢献・地域貢献          | <p>ボランティア活動については、シグマソサエティとして認定されており、地域でのボランティア活動に積極的に参加している。3年間のボランティア活動に貢献した学生への表彰を行っている。</p>   |

|  |  |
|--|--|
|  | <p>小諸市の市民行事に毎年参加している。今後も、実習施設や近隣施設からのボランティア要請にも対応していきたい。また、令和6年度長野県総合防災訓練 DMAT 訓練に学生は傷病者役、教職員はスタッフとして参加した。</p> |
|--|--|

令和6年度 学校評価グラフ



5.意見交換

意見:この公表が遅くなった理由は。

回答:日々の教育活動からその時期を逃していました。

意見:この評価は学生のみでの評価となっているのか。

回答:学生と同じ評価項目を教員も行っています。

意見:学生評価と教員評価の2者間の齟齬があった場合は。

回答:その齟齬に関しては、しっかり次年度に向けて考えていく様にしています。

意見:学校の特色を理念に入れて行くと受験者数が増えるのではないか。

回答:パンフレットなどの学校紹介には、学校の特色をいれております。学生との距離が近い、アットホームなどな環境とパンフレットの中に記載しております。

意見:先程の説明で教員と距離が近いという話がありましたが、あまりにも近すぎて、言葉遣い等みだれてしまう事も懸念されます。その辺りの表現に注意が必要かと思います。

回答:現在の学生数も少人数であり、自律を促さなければいけない環境であるので今後留意していきます。

意見:20期生おける進路相談指導の評価が低い。学年が早い1年生の段階から相談指導していくと評価があがるのでは。さらに、1年生に講義もしていると、進路相談をよく受ける。

回答:1年生の段階で進路指導という形をしっかりと明記していないため、今後、取り入れていきたい。

また、1年の早い段階で奨学金を受けている。現在も1年生も約1/3がすでに受けている。よって、奨学金受けていることは、就職が決まっている状態であり、逆に相談機会は減る傾向にはある。

意見:進路指導の際、学生の個性をみて、「あなたはこの分野(急性・慢性等)向いている」等のアドバイスをして頂ける保護者としてありがたいと思います。

回答:実習を重ねていくとわかる事もあると思います。また、就職活動が、早まっている。まだ実習が終えていない、または、基礎実習の時期で就職活動となるので、自分が何処に向いているのかわからないまま就職病院を決める事例もある。

実習中に何か就職に特化したアドバイスはすることは無いが、適宜面談を行って対応していきたい。

意見:学校様には、市民祭りに毎年参加し盛り上げて頂きありがとうございます。また今も健康づくり課で健診見学を含めた実習にも来てもらっています。不足の所あればまた教えて頂けたらと思います。

回答:多職種連携として貴重な実習場所、体験ありがとうございます。

## 6. その他

意見:今現在どこの看護学校も定員割れをしている現状の中、当センターは、貴校の卒業生によって看護職員を充足しています。もし、貴校に何かあれば、当センターも大変厳しい状況です。是非とも存続できる事を切に願います。

回答:今年、令和8年度入学者は、25名以上となっています。更なる教育の充実を図っていきたくと考えています。

## 7. 閉会

山田副学校長:はじめての学校自己評価委員会の開催でしたが、貴重なご意見を頂きありがとうございました。今後も学生の個性を大切に、小諸看護専門学校の教育充実に尽力していきます。今後もよろしくお願いいたします。

## VII.総評

はじめての学校評価委員会を開催し、各分野からの委員によって多角的視野での意見交換が出来た。

今回の学校評価において、評価点が平均に満たない項目は、「Ⅱ学校運営」「Ⅳ学習成果」の2領域であった。

これらの領域について意見を述べる。

「Ⅱ学校運営」について

教育理念・教育目的を踏まえ、運営方針、予算・事業計画を立案し、学校運営を行っているが、近年、入学志願者の減少は顕著であり、その要因として少子化や大学志向の影響が大きい。昨年度も課題であった項目である。存続にかかわる事象と捉えている。

「Ⅳ学習成果」について

看護師国家試験の合格率が100%でなかったことである。

国家試験対策として、1年次より学力の確認と個別学習指導の実施、また、3年次は定期試験後の成績の分析と個別指導等を実施してきた。今後は学生の特性に合わせての指導を早期より強化したい。是非次年度は100%となるように努力していきたい。

今回の課題を教職員共有し、学生の教育の質の向上に努めていきたい。

以上